

8月17日～8月23日までLabo4ではタイの北方に位置するチェンライ県の山岳少数民族の村でボランティアワークキャンプを行います。「途上国女性の社会進出課題」をテーマに、これまでの成果を踏まえ、研究を深めてまいります。この研修は「チェンライ風の学校ボランティアワークキャンプ」と名付けられており、昭和女子大学の9名の学生と共に活動いたします。

■ ■ ■ タイ・チェンライ県に到着しました



[チェンライ空港にて]

■ 8/17(初日) 羽田空港からチェンライ空港へ到着

タイとミャンマーの国境付近には数十を超える山岳少数民族が生活しています。タイ政府によって低地に強制移住させられたこれらの人々の生活には解決すべき課題がいくつもあります。

■ 8/18(金) 事前勉強会 (ミラー財団にて)

宿泊拠点であるミラー財団(NGO)に無事到着しました。チェンライでお世話になる「ミラー財団」は山岳少数民族の支援に長い歴史と実績を持つタイ人によるNGOです。

蟻の大集団や、ヤモリ、蛾にも歓迎され、日本とは全く異なる環境での研修がスタートしました。

この財団で長く活躍されておられる日本人スタッフの女性にミラー財団がどのような経緯で現在のような活動をしているのか、活動理念や活動内容について講義していただきました。

また、研究テーマにもつながる山岳少数民族の歴史や文化・現状や課題についても学びました。

午後は、カレン族の村を訪問。象に乗り村を一回り。餌をあげる体験もさせてもらい、象と共生していたカレン族の生活を垣間見ることができました。

ミラー財団に戻ったあとは、国境付近の問題や、明日訪問する児童養護施設についてのレクチャーを受けました。



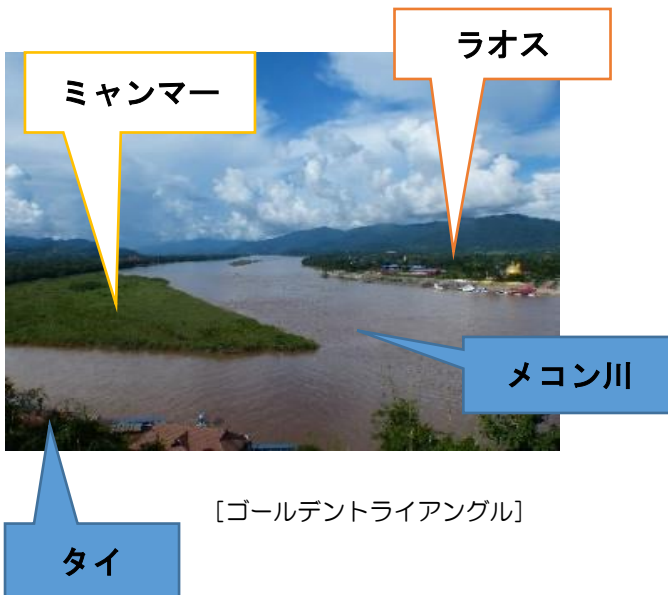
[オリエンテーション&講義]



[カレン族の村訪問&象乗り体験]



国境の町へ ゴールドトライアングル アヘン博物館



[ゴールドトライアングル]



[ゴールドトライアングルの丘の上で]

■ 3日目は国境の町メーサイを訪れました。

丘の上からタイ・ミャンマー・ラオスの3カ国がメコン川を挟んで隣接している様子を見渡すことができます。この場所はゴールドトライアングルと呼ばれ、かつてはアヘンの一大生産地でした。近くに王立オピウム博物館があり、この地のアヘンとの関わりやその恐ろしさを近代的で分かりやすい展示で学べるようになっています。

児童養護施設訪問



午後にはクルーナム財団が運営する子どもの家に行きました。

この施設は、昨年訪れたドロップインセンターで一時保護されたストリートチルドレンが、共同生活をしています。子どもたちはここで自立への道を探ります。

この施設のナム先生が財団の立ち上げまでの経緯や苦労、現在抱える諸問題について話してくださいました。麻薬中毒の親を支えるため、学校にも行かずに物乞いをする子ども、性的虐待や売春被害にあう子どもの話、日本との関わりについても話していただきました。厳しい現実には衝撃を受けましたが、あらためて私たちに何ができるのか考えさせられる機会でした。



アカ族の村でホームステイ 8/20・8/21



〔アカ族の村人との懇談会〕

■ 山の中にあるアパーというアカ族の村での生活を体験

本日からはこの研修のメインとなる山岳少数民族の家庭でホームステイが始まりました。大雨のち晴れのち雨。変わりやすい天気です。

午前中は、村人たちとの懇談会。事前に準備していたたくさんの質問をすることができました。アカ族は男性の役割、女性の役割が分かれています。女性も積極的に発言をし、社会参加している様子が伝わってきました。

午後は、アカ族伝統の手工芸品作りにチャレンジです。刺繍に竹細工、プレスレットやネックレス作りに挑戦しました。たくさんの部族がある中でも、アカ族の女性は器用で高度な刺繍技術を持っていることで有名です。刺繍はブック葉くらいの大きさの布でも、完成に3時間以上かかります。



〔刺繍&竹細工体験〕



アカ族の伝統工芸を習いました

ホームステイ最終日



〔村の子どもたちとの交流会も和やかに行うことができました〕



〔キャンプファイヤーを囲んで山岳民族の衣装を着て、みなで楽しく踊りました〕

